




(家庭科)科 学習指導案(略案)

中学校
授業者:

日時・学年：令和6年12月24日(火) 4校時個別支援学級(15名)

1. 単元名：「衣食住の生活 様々な食品とその選択 食品の安全と情報」
2. 本時のねらい：食中毒を起こさないための方法を知る。

①主体的	②対話的	③深い学び
 興味や関心を高める	 多様な情報を収集する	 知識・技能を習得する

→実現するための「発問・発話」「教師のはたらきかけ」を指導案内に取り入れてください。

3. 生徒の実態(略案の為、特筆する生徒のみ)

No.	学年	名前	生徒の実態
1			情緒障害 気が散りやすく落ち着きがない、物事がうまくいかずにイライラすると暴れる。嫌いな物事があると席から離れて別の教室でクールダウンする。
2			知的障害 話を聞いていないことが多く、全体指示が難しい。また、手足の操作性が低く、指示通りに作業や行動ができないことが多い。
3			知的障害 多動性が強く、落ち着きがなく体が動いていることが多い。注意すればしばらくはおとなしくすることができる。本人のお気に入りの人に近付きすぎることが多々あるため、適宜注意して人と接触が無い様にさせる。
4			知的障害 多動性が顕著に表れており、常に落ち着きがなく関係ないことを話したり体を動かしているのが多い。承認欲求が強く、常にアピールしている。物事を覚えるのが苦手で一つ一つ丁寧に指示を出す必要がある。
5			情緒障害 聴覚過敏で騒がしかったりすると怒鳴るか泣くことが多い。イライラすると暴言を吐き他の生徒を傷つけることが多い。承認欲求が強くアピールを受け取らないと情緒が崩れやすい。

4. 個人目標(略案の為、特筆する生徒のみ)

No.	学年	名前	生徒の実態
1	3		情緒をコントロールする。相手の気持ちを考えて行動する。粘り強く集中して取り組む。
2	2		成功体験を増やし、自信を持たせる。基礎基本の学習を行い、できることを増やす。
3	2		適切な人間関係の距離を図る。物事に名バリ強く集中して取り組む。
4	1		場面に応じて適切なコミュニケーションをとれるようになる。物事の準備を自立して行えるようになる。
5	1		情緒をコントロールし、変化する状況に適切に対応できるようにする。

5. 本時の展開：5 時間中 4 時間目

	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価(観点, 方法等)	㊦㊦～㊧教員の動き △生徒への支援
導入 (3分)	調理実習で大切なことについての話を聞く。 インフルエンザなどの感染症や食中毒が流行していることを聞く	○身近な出来事を多く取り上げることで食中毒や感染症のことについて想像しやすくする。	㊦㊦全体を見ながら話をし、生徒が話を聞いているか見る ㊦㊧適宜話を聞いてない生徒を注意する。
主発問: 食中毒を起こさない為にはどうすればよいか？			
展開 (37分)	動画1を見てどのような原因で食中毒が起こるのかを考え、発表する。(13分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <u>予想される生徒の反応:</u> きちんと洗ってない 唾が飛んでいる 全体的に汚い </div>	○本時は食中毒の防止について考えることを伝える。 ◆食品や調理用具等の衛生にについて理解することができる。(知・技)(ロイロ) ◆周囲の仲間と協働して学習を行うことができる。(主)(グループワーク、声掛け)	㊦㊦生徒A・B・Eに注意して話を聞いているか、理解しているか確認しながら授業を行う。 ㊦㊧生徒Cに注意して、関係ないことをしないようにする。 ㊦㊨生徒A・Eに注意して動画や板書などに興味を持つよう促す。
	動画2を見てなぜ食中毒が起こるのかを確認し、食中毒を予防するための具体策を考える。(13分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <u>予想される生徒の反応:</u> 手や調理器具を洗う </div>	○食中毒予防の3原則を例を出しながら学び、どのように予防するか発問を行う。 ◆調理器具等の衛生について理解し、学習を振り返り質問・相談を適切に行うことができる。(思・判・表)(グループワーク)	㊦㊦机間指導を行い、グループ活動に参加できているか確認する。 ㊦㊧生徒B・C・Dが活動を行えるように注意する。 ㊦㊨生徒A・Eが活動に参加し、他者を出来る限り攻撃しないように会話のサポートをする。
	動画3、動画4を見せ、今日これから私たちがすぐにできる食中毒予防の方法を学び、席で実践する(11分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <u>予想される生徒の反応:</u> 知ってる、この前やった やったけど忘れた </div>	○食中毒や感染症の予防の為に正しい手洗いの方法を学べるように確認しながら指導を行う。 ◆食品や調理用具等の衛生にについて理解することができる。(知・技)(実技) ◆周囲の仲間と協働して学習を行うことができる。(主)(声掛け)	㊦㊦動画の内容を補足し、生徒が理解しやすい説明を心がける。 ㊦㊧生徒Bに付き添い、手洗いの実践を補助する。 ㊦㊨生徒Dに付き添い、手洗いの方法や順番の補助をする。
まとめ (5分)	・本時の授業のふりかえりを行う。	◆調理器具等の衛生について理解し、学習を振り返り質問・相談を適切に行うことができる。(思・判・表)(板書の確認)	㊦㊦全体を見ながら話をし、生徒が話を聞いているか見る ㊦㊧適宜話を聞いてない生徒を注意する。

授業観察シート

授業者: XXXXXXXXXX

< 授業観察の視点 > (3つ程度、授業観察で見てほしいポイントを ■ にしてください。)

授業者が記入

- ① 生徒を見る 視線 主体的な活動の様子 発言、行動
 ワークシートへの記入状況 生徒のグループ学習への参加状況
- ② 授業者を見る 生徒との関わり方 生徒の活動状況の把握 授業者の発話、振る舞い 板書
- ③ 授業展開を見る 授業の流れ、時間配分 目標と学習活動の関連 目標の実現状況
- ④ 学習環境を見る 展示物の工夫 授業に集中させる・教材・教具の工夫

● その他(自身の授業づくりや評価についての課題、意識的に取り組んでいること等あれば記入)
今回教科横断的な授業を目指して、自立と中3理科環境分野の生物の遺骸の行方という内容の
実験結果も使用して衛生の重要性の確認を行いたいと思う。

観察者が記入

観察者 _____

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
 興味や関心を高める	 互いの考えを比較する	 思考して問い続ける
 見通しを持つ	 多様な情報を収集する	 知識・技能を習得する
 自分と結び付ける	 思考を表現に置き換える	 知識・技能を活用する
 粘り強く取り組む	 多様な手段で説明する	 自分の思いや考えと結び付ける
 振り返って次へつなげる	 先哲の考え方を手掛かりとする	 知識や技能を概念化する
	 共に考えを創り上げる	 自分の考えを形成する
	 協働して課題解決する	 新たなものを創り上げる

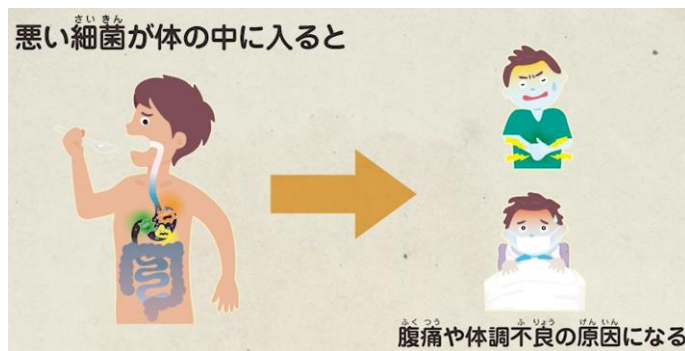
動画 1「おなかの原因を探れ」

内容) 2人の探偵のもとに1人の相談者がなぜ腹痛が起こったのか、相談者の調理風景が描かれている動画



動画 2「どうして不衛生だといけないの？」

内容) 不衛生だと体に害を与える悪い細菌が増えるというのが描かれている動画



動画 3「もう一つのおなかの原因」

内容) 食中毒を起こしたのは相談者だけでなく客にも原因があったというのが描かれている動画



動画 4「プロに見せてもらう正しい手の洗い方」

内容) 日本マクドナルドで行っている正しい手の洗い方で手を洗っている動画



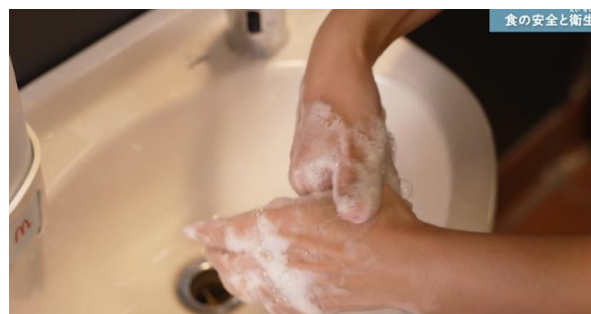
参考資料:「マクドナルド公式食育支援教育楽しく学べる食育デジタル教材食育の時間+」より
テーマ 4「食の安全と衛生」

<https://www.chantotaberu.jp/jikan/theme4/?mdjr=1>

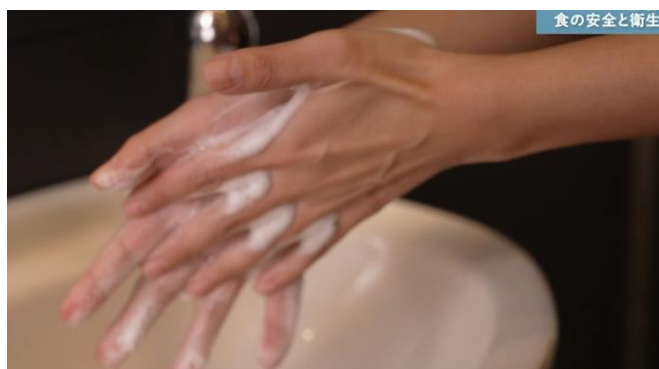
動画 4 のポイントについて(静止画)



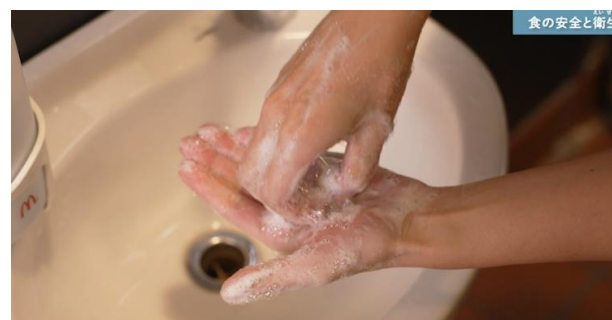
①手の平をあわせてこする



⑤親指を手でつまみつけねからこする



②指をくんで両手の指の間をこする



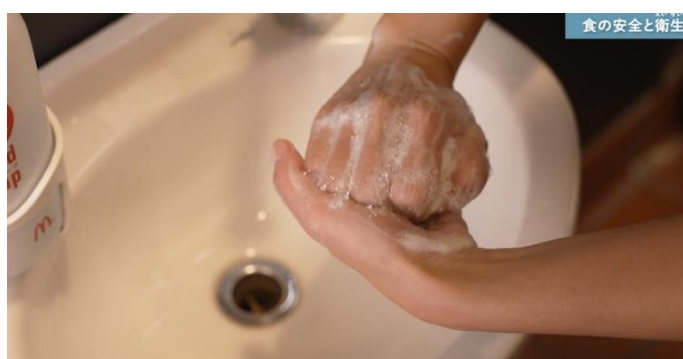
⑥つめを立ててもう片方の手の平をこする



③手のこうをかたほうの手の平でこする



⑦手首からひじまでをていねいにこする

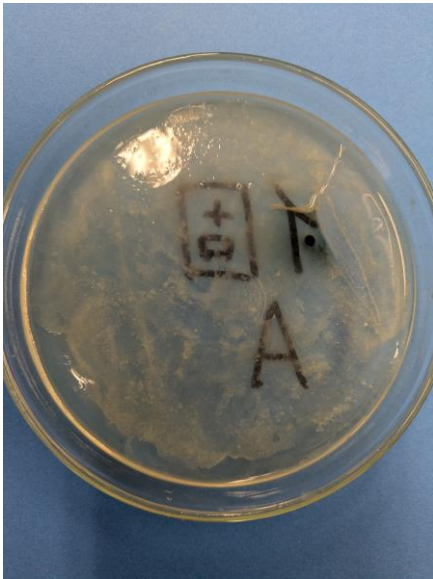


④両指をにぎって指の背と手の平をこする



⑧水でよくすすぐ

理科実験「手や身の回りの場所にいる分解者(微生物)」結果

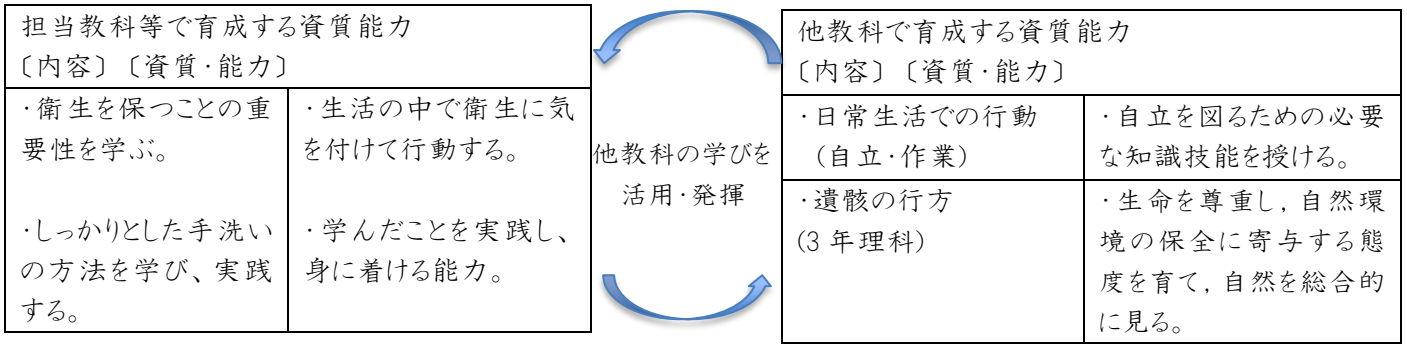


○実験概要

- ・本実験は中学3年理科の環境分野の食物連鎖の分解者に関して学ぶ内容の実験である。実験結果より、目には見えないが様々な場所に多くの微生物がいることを学び、そしてこれからの日常生活にて手を洗うことの重要性を学ぶことができた。

教科横断的な学びのための構想シート

単元名：衣食住の生活 様々な食品とその選択 食品の安全と情報



どのような指導で取り組むか考える
いつ(どのように) ・感染症や食中毒が多い冬に冬休み前の健康管理の方法の一環として衛生について学ぶ。 ・本学習を通して食事の前や掃除の後など生活の場面で衛生に気を付け手洗いの習慣を身に付けてほしい。
教科等横断意識して、授業を行う

生徒の姿から資質・能力の活用について成果や課題を振り返る		事後や次年度に行かせるように改善案を作り実施する。
〔成果〕(予想される)	〔課題〕(予想される)	
・正しい手洗いの方法を学ぶことができた。 ・日常生活で衛生に気を遣うようになった。	・手や調理器具を洗うなどの衛生管理について再度調理実習を行ったり、学校生活で手洗いの習慣を作り、定着を図りたい。	